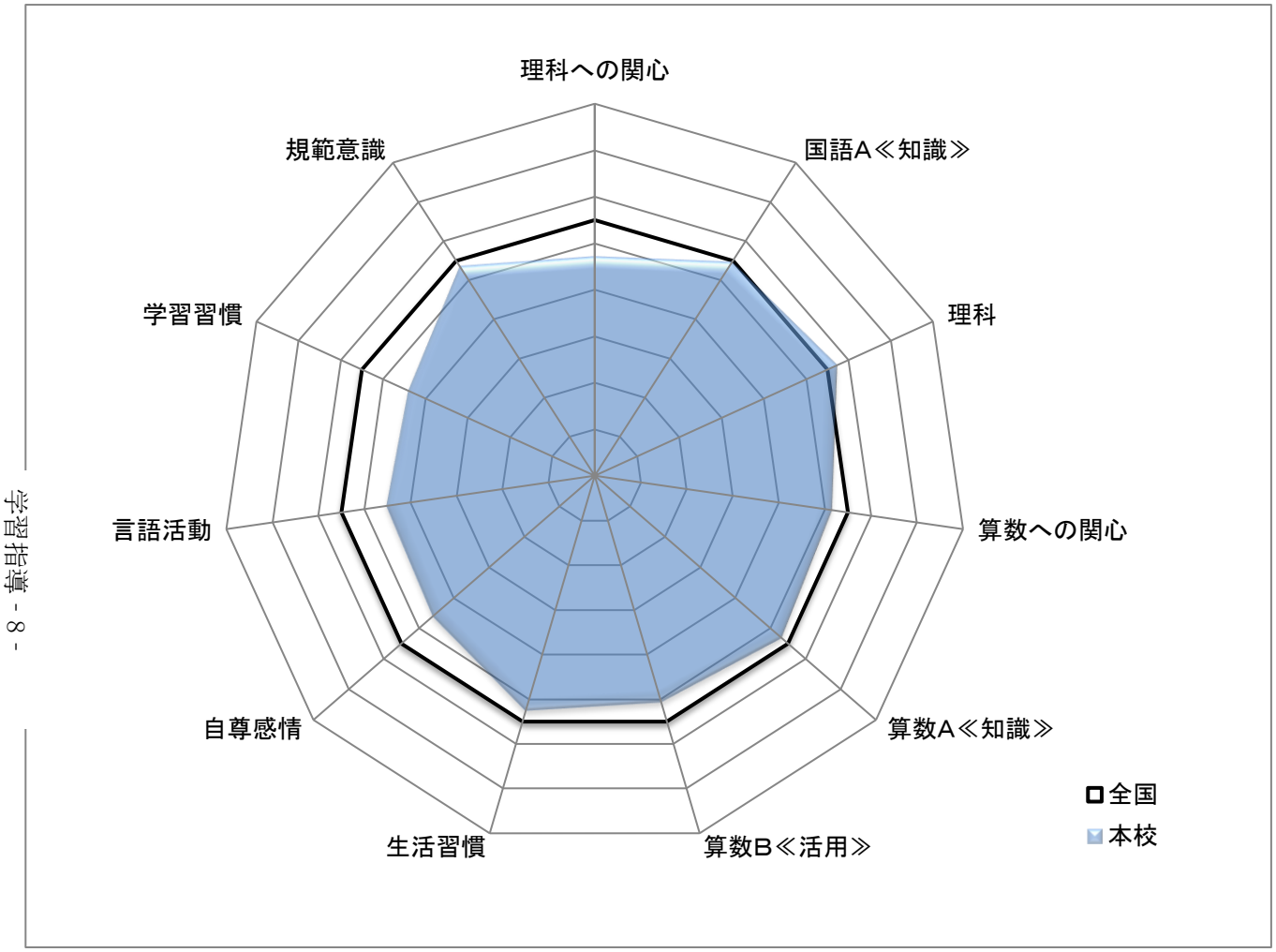
平成30年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表　　江戸川区立大杉東小学校

本調査は平成30年４月に全国の第6学年児童を対象に行った学力調査です。各教科別に正答率・到達率をグラフに表しました。
太線が全国平均の正答率・到達率を表します。中太線が本校の正答率・到達率を表します。



《現状把握》

算数・理科への関心・意欲が全国と比較し、大きく下回る結果となった。国語では、主語・述語の関係や敬語の使い方、漢字の読み書きなど、言語についての理解や知識が不足している。さらに、自分の考えを文章で表すことに大きな課題が見られた。算数では、基礎的な四則計算などの技能は、身に付いているものの公式を利用した活用問題では、低い正答率となった。理科では、全国の平均正答率を上回る結果となったが、実験結果を基に分析して、考察することを苦手としている傾向が見られた。

《授業改善のポイント》

どの教科でも児童が自ら主体的に課題に関わり、見通しをもって課題解決をし、友達と対話を重ねることで学びを深めていけるような授業を展開することで、学習への興味・関心を高められるようにする。国語の言語の知識ついては、繰り返しドリル学習に取り組んだり、引き続き「東京ベーシックドリル」を活用したり、児童一人一人の苦手分野を把握しながら基礎学力の底上げを図っていく。さらに、資料から読み取った内容をまとめる、それについての自分の考えを書くといった基礎的な活動を計画的に継続的に行うことで、書く力を育てていきたい。算数では、条件を満たしながら、数を操作したり、あらかじめ見当を付けてから測定したりする作業的な活動や見通しをもって調べる活動をどの単元でも丁寧に取り扱う。実感を伴った学習を展開しながら、そのことを応用しようとする力を培っていく。理科では、実験結果を表やグラフなどに整理し、考えの根拠となる事実を明確にしながら、結果から考えられることを説明する学習活動を実践することや問題解決の様々な場面で自分の考えを表現したり、見直したりするなどの話し合いを重視した学習活動を展開する必要がある。

《チャートの特徴》

＜全国と本校の平均正答率＞

国語Ａ	全国７０．７％	本校７０％	国語Ｂ	全国５４．７％	本校５３％
算数Ａ	全国６３．５％	本校６１％	算数Ｂ	全国５１．５％	本校４７％
理科	全国６０．３％	本校６３％			

理科を除く全ての項目で、全国平均を下回った。特に「学習習慣」「言語活動」の項目については、全国から大きく下回る結果となった。家庭で宿題や自学自習に取り組んだり、予習復習をしたりする習慣が身に付いている児童が全国と比較し、少ない状況にある。

《家庭・地域への働きかけ》

「早寝、早起き、朝ご飯」の良い生活習慣を継続しつつ、家庭で学習する習慣が確実に身に付けられるよう、生活時間の見直しを図っていただく。テレビ・ゲーム・携帯電話の扱い方や、時間について家庭でルールを決め、きまりを守る意識を育てていく。さらに、学校と家庭が同じ視点をもち、児童を認めることで自尊感情を高めていけるよう、学校と家庭とで連携していく。